

科学的探究力、人間力、自己表現力、国際感覚の育成をめざす

SSH2年目 新たなスタート!

昨年度は右も左もわからず、ただ無我夢中という感じで突っ走りました。今年度は、SSH事業2年目を迎えました。校長先生は正念場であると言われ、今年度の重点目標に入りました。気持ちを新たに全国99校あるSSHの仲間とともに理科や数学大好き人間を増やしていきましょう。今年度は2大事業(関東サイエンスツアー、韓国大田科学高校との交流)を中心に精選して効率よく運用していきたいと思えます。皆様のご協力をお願いします。

平成19年度 主な行事予定

《 学校設定科目 》

「スーパーときめきサイエンス」「数学スーパーゼミⅠ」「ECⅠ」
「スーパーチャレンジ」「数学スーパーゼミⅡ」「ECⅡ」

《 校外研修予定 》

ア) 工学部における実験セミナー (理数科2年)

日時:7月19日(木)~20日(金) (1泊2日)

場所:金沢工業大学

宿泊場所:白山青年の家

○もの作りの楽しさ、面白さをグループ体験を通して学ぶ。テーマは「いかにして軽くて強くても美しい橋を造るには」というもの。コンピュータシミュレーションを使って競い合いながら学ぶ。

イ) 生物・地学分野の野外実習 (理数科1年)

日時:7月31日(火)~8月2日(木) (2泊3日)

場所:能登少年自然の家とその周辺

○能登の海へでかけて海辺の生物採集観察、ウニの発生実験などを行う。

○化石発掘や岩石や地層から年代測定を行う。

ウ) 関東サイエンスツアー (理数科1年)

日時:9月27日(木)~29日(土) (2泊3日)

場所:東京、筑波研究学園都市など

○日本の科学技術に関する基礎研究所が集中している筑波研究学園都市で、最先端の科学研究に触れ、技術者や研究者と接することで、もの作りの面白さを体験する。

エ) 韓国・大田科学高校との科学交流 (理数科2年)

交流その1 小松高校から韓国へ

日時:12月18日(火)~21日(金) (3泊4日)

○課題研究の英語での発表を中心に生徒交流とホームステイ。

交流その2 韓国・大田科学高校から小松へ

日時:1月25日(金)~28日(月)

○博物館や科学研究施設見学などと生徒交流とホームステイ。

スーパーときめき
サイエンス化学
特別講義

テーマ:「飲んだ薬はどこへ行く?

薬の運び屋タンパク質が決める効果と副作用」

講師:加藤将夫氏(金沢大学大学院自然科学研究科助教授)

日時:平成19年3月15日(金)

場所:金沢大学薬学部 プレゼンテーション室

対象生徒:理数科1年生40名



きれいなスライドや演示実験を多用して、大変丁寧にかみ砕いて講義していただきました。身近な薬というもののとらえ方、扱いかたのお話から、薬がトランスポーターを通過して、細胞に取り込まれるという最先端のお話を聞き、時間の経過を忘れてしまう、密度の濃い、充実した時間を過ごすことができました。

薬学部に入った場合の4年制、6年制の違いについてもわかりやすく説明していただき、生徒達の進路選択の参考になりました。校舎内見学で、研究室の中まで見せていただき、生徒達に大学を意識させ、自分の進路を考える得難い機会になりました。

《生徒の感想》

- 今日の講義で、薬というものが深く知れた。薬の効き方、血中濃度について、また、トランスポーターというものの存在、何も考えずに用法・用量を守って飲んできた薬だが、何故それを守らなくてはならないのかということの本当の意味も知れて良かった。
- 非常にわかりやすい講義でよかった。冒頭の「全ての物質は毒であり、……」というパラケルススの言葉はとても印象に残った。
- 大学の施設の充実さに驚いた。オープンキャンパスには必ず来たいと思う。

平成18年度 第2回SSH運営指導委員会

3月29日、本校大会議室にて平成18年度第2回SSH石川県運営指導委員会が開かれました。最初に石川県教育委員会学校指導課長の浅田秀雄氏と柘川校長が挨拶をし、その後は座長に選任された金沢大学副学長の長野勇氏の司会で会が進行しました。

先ず、SSH推進室長の板東教諭が1年生の関西サイエンス・ツアーと2年生の韓国・大田科学高校との交流事業を中心に18年度後半の取り組みについて報告し、19年度の予定について説明しました。

外部委員からは次のような提言がなされました。

- 英語でのプレゼンテーションは原稿に頼らず、内容を自分のものとして発表し、自己表現力や国際性を身につけて欲しい。
- 各事業で得た感動を定着させ、考える力をつけさせるためにもレポートを書かせる作業は効果的である。
- 行事が多くて感動の山が低くならないか心配だ。行事を精選して最終的に5年後、学校にどのような力が残っているかを見据えておかなければならない。
- 1年ごとに「こういう事業をやって、こういう課題が残った」という報告をして欲しい。
- 19年度の「関東サイエンス・ツアー」で生徒の好奇心をかき立てて欲しい。また、スポーツのランニングと同じで地道な努力が必要だが、その好奇心を発展させていくことが大切だ。
- 理数系の専門を生かすためにはチームワークが大切である。人間力を磨いて、チームの中の一員としてやっていけることが大切だ。

平成19年度 第1回SSH石川県運営指導委員会は8月下旬に行われる予定です。

スーパーチャレンジ(課題研究)開講式

今年からSSHとしての課題研究がはじまります。平成19年4月18日(水)にスーパーチャレンジ開講式が行われ、校長先生より激励をいただきました。SSH課題研究発表会は11月下旬を予定しています。



No.	課題研究テーマ	No.	課題研究テーマ
1	こまはなぜ倒れない? (物理)	6	地球に優しく (地学)
2	正多角形の作図 (数学)	7	Mod(モード)の世界 (数学)
3	竜巻の強度の研究 (物理)	8	EXCELで遊ぼう (数学)
4	いろいろなもので結晶を作ろう (化学)	9	『美しさを』を科学する (数学)
5	動物の行動とその原因 (生物)	10	トレーニング法について (保健体育)

※No.1とNo.2は、韓国・大田科学高校との科学交流で英語での発表を行う予定です。